

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成20年9月10日
事業所名	グループホーム川口結いの家
事業所番号	2372800447
記入者名	職名 管理者 氏名 鈴木 孝之
連絡先電話番号	0566-52-4617

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかえる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム川口結いの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	愛知県碧南市川口町1丁目178-1
記入者名 (管理者)	鈴木 孝之
記入日	平成20年9月10日

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念以外にも、ホームの運営方針を掲げており、身体拘束や不必要な規制はおこなっていない。その方の今までの生活が継続できるように、支援をおこなっている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフルーム、玄関に掲示し、日々理念に沿ったホームになるよう、スタッフ間で意思の統一を心がけている。また法人全体の朝礼にて理念の唱和をする事で、法人全体で理念に向けての意思統一を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	外に出る事の重要性を重視し、一日二回買い物へ出かけたり、地域の美容院へ出かけたり、地域行事への参加等し、地域での社会参加の機会を多く取り入れるようにしている。また理念、重要事項等は玄関先にファイリングし誰でも見れるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ゴミ捨てや散歩時に、近隣の方に積極的に挨拶するように心がけている。近所の方が施設周囲の草取りや、栽培された野菜の差し入れなどして下さり、少しずつですが、関わりや訪問者も増えてきた。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には参加出来るように計画を立て、積極的に参加している。また法人の夏祭りなどを通じて地域の人や地域ボランティアとの交流も図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等 の暮らしに役立つことがないか話し合 い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしに関する話し合 いや、取り組みはできていない。ただ 法人の企画で地域交流事業を定期的 におこなっており、ホームスタッフも 参加し介護についての理解や、情報 の公開、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価 及び外部評価を実施する意義を理 解し、評価を活かして具体的な改 善に取り組んでいる	良い事は継続し、改善を感じる点 はスタッフ会議等で話し合い、改 善する事を検討している。外部 評価を受ける事で普段では気づ かず見落としている部分を再 確認し、業務改善とケアサー ビスの向上につなげていける と考え取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサ ービスの実際、評価への取 組み状況等について報告 や話し合いを行い、そ こでの意見をサー ビス向上に活かしている	参加できるご家族には参加して 頂けるように呼びかけている。 また会議には職員も参加させ、 ご家族の意見等を運営者、管 理者だけでなく直接、現場 職員も聞けるようにしている。 会議は連絡・報告する事が 主となっているため、問題 を話し合えるようにしてい きたい。	○	ターミナルケアやホーム内での 看取りについて、家族への 説明や理解を深めていき たい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運 営推進会議以外にも行き来 する機会をつくり、市町 村とともにサービスの質 の向上に取り組んで いる	行き来する機会が少なく、 連携不足である。積極 的な情報交換をしてい きたい。	○	市町村が開催する勉強会 などに参加し、関りを 保つ。
10	○権利擁護に関する制度の 理解と活用 管理者や職員は、地域 権利擁護事業や成年 後見制度について学 ぶ機会を持ち、個 々の必要性を関係 者と話し合い、必 要な人にはそれら を活用できるよう 支援している	一部の職員は学習し理 解しているが、ホ ーム全体として学 習会を行ったり話 し合いを行ったり してはいない。	○	研修会等機会があれば、 参加しホーム全体で 情報を共有してい きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、 高齢者虐待防止 関連法について学 ぶ機会を持ち、利 用者の自宅や事 業所内で虐待が 見過ごされることが ないよう注意を 払い、防止に努 めている	高齢者虐待防止関連 法の内容は一部の 職員のみが理 解している現 状だが、一般 的な解釈での 虐待については 全職員認識し ており、ホ ーム内での 虐待が起き ないように、 注意を払い 防止に努 めている。 また法人 内の委員 会活動に 参加し、 身体拘束 や虐待に ついての 情報の 共有を 図って いる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前の面接にて、入居に関することを説明し、本人・家族からも疑問や不安が無いかを聞くようにしている。その後入居時には契約書、重要事項説明書を一緒に読み合わせながら、説明、確認を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者からの不満は日々の生活の中の訴えや、行動から汲み取るように心がけている。外部より定期的にサービス相談員が訪問している。意見は会議等で検討し、サービスに反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書送付時に、預かり金の出納帳やホーム新聞を同封することで生活内容をご家族に報告している。人事の異動についてもホーム新聞に記載すると共に、運営推進会議でも報告をしている。体調の変化や事故等に関してはその都度速やかに報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議の場において家族の意見を聞くようにしている。事業所内の苦情相談窓口以外にも第三者による苦情相談窓口を設置している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議において意見や提案の機会は設けている。運営に関しては管理者が法人全体の運営会議に出席し、意見を述べる事で職員の意見や提案を反映させている。</p>	<p>○</p> <p>運営者に職員が直接話しをする機会が少ないため、スタッフ会議等に参加して頂ける様にしている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の生活スタイルに合わせて勤務時間を調整したり、一日の出勤人数を調整するように心がけている。職員の都合で入居者に制限が加わる事の無いよう極力配慮をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は入居者との馴染みの関係を重視し、職員の健康状態など以外は必要最小限にする方針を掲げている。職員の補充はグループホームに適した人材を当てている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各委員会の勉強会を毎月行っており、そこにGH職員も参加している。外部の研修会への参加の機会も設けている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH協会に加盟しており、協会の委員会活動や相談委員会出席にて意見交換を行っている。また職員も協会主催の研修会を中心に同業者との交流を図る機会を設けている。またそこで得た情報をスタッフ会議等で伝達している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員主体で運営されている親睦会があり、親睦旅行等が計画されており、そういったものを通じての仲間作りやストレス解消への取り組みをしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個人目標（3ヶ月毎）を立て、自己の気づき、反省を踏まえ、自己評価を実施している。そこに管理者、施設長がコメントを付記し本人に返す事で職員1人1人が向上心を持って働けるように取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時に相談者から頂いた情報を基に、入居前には自宅等に訪問面接に行き、本人からも困っていることや、詳しい状況等を聞き、ホームでの支援につなげるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時にご家族から入居希望者の情報を聞き、入居前には自宅等に訪問面接に行き詳しい状況等を聞き、ホームでの支援につなげるようにしている	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に家族のサービスに対する意向や対象者の状況を確認し、状況に応じて様々なサービスの情報を提供するように努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や入居前に本人にもGHに来てもらい、実際に雰囲気や建物を見てもらうなどし、サービス利用を始めるように心掛けている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般において入居者と一緒に行うことで、入居者主体の生活である事を職員が認識している。出来ない部分のみを支援することを心がけ、入居者が介護される一方的立場にならないようにしている。	○ あくまで生活の主体は入居者であることを忘れず、過剰介護にならず、能力を失わせてしまう事の無いように黒子のケアを継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	衣替えの支援や外出など、ご家族の生活の負担にならない程度に協力をお願いしている。日々の様子や症状の変化など定期的に伝えて行くことで、入居者についてともに考える関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係は様々である為、こちらからの無理なお願いや依頼は行っていない。以前までの関係を考慮し家族に負担のない程度のことをお願いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住む家族からの電話の応対や、手紙の送付など、個々のニーズに合わせて行っている。馴染みの理美容院への外出や、よく行っていたスーパーへ買い物など支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々で出来る事や出来ない事が違い、それを職員だけが支援するのではなく、入居者間で助け合って生活する事を職員が支援できるよう取り組んでいる。入居者間では人間関係によるトラブルもあるが、なるべく関係性が保てるように職員が調整役となり配慮をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームでのサービス利用が終了後も、併設施設を利用されている方に関しては、入居者や職員が挨拶に行くなど、退居後も交流を図っていた。退居された家族との連絡は行っていないが、継続的な関係や情報交換が必要な方には、個々に応じて対応していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者には思いを表現できない方もみえるため、場面、場面でニーズを引き出すようにしている。家族には面会時や運営推進会議等を利用し、ケアプラン更新より前に希望や意向を聞くようにしている。カンファレンスにてそれらの情報をスタッフで共有しながら本人主体の生活を支援している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し、入居時に本人が昔はどのような暮らしをしていたのか、最近はどのような暮らしをしていたのか、趣味や嗜好を含めてご家族から情報提供を受ける等し把握に努め、ホームでのケアや生活に活かすよう取り組んでいる。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方は入居時に本人・家族より情報を収集し、本人の過ごしてきたライフスタイルを極力変えないように支援している。またケアプランにて本人の能力を十分引き出せるようにし総合的に生活を支援できるように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の採用と支援計画書に基づき、ニーズの把握を行い、本人・家族と情報を共有してプランを作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回はカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っている。また、問題発生時や状態の変化等がある場合はその都度、ミニカンファレンスを行い速やかに状態の変化に対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに、毎日の行った記録を介護計画の内容を中心に記録している。フォーカスチャージングの記録手法を用いる事で状態の変化や支援方法など細かな部分も記録によって情報の共有が出来るようになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設への行事の参加や、看護師の協力など体制面でのバックアップが整っている。ホーム独自では通院や外出支援、介護保険に関する行政手続きの代行など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特別な支援は行っていない。要望があれば支援を検討していく。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特別な支援は行っていない。要望があれば支援を検討していく。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特別な支援は行っていない。要望があれば支援を検討していく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ホーム全体での情報共有をしっかりとおこなっていききたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>情報交換をしっかりと行い、影響が最小限に抑えられるように配慮している。自宅からホームに移り住む場合は、使い慣れた物を持ち込み少しでも居室が在宅と似た空間になるように支援している。ホームからの移り住むことに関しては安易な退居などによる本人のダメージが起きないように配慮している。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録や個人情報に関しては介護保険法や個人情報保護法に基づいて取り扱っている。入居者への声掛けは、プライバシーや羞恥心に配慮している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>選択する機会をできる限り設け入居の個々の希望を聞くよう心掛けている。本人の能力に合わせながら自己決定できるよう支援している。</p>	○ 決定を急かさず、また一方的な意見の押し付けをしないように気をつけていきたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームには大まかな流れはあるが、しっかりとしたタイムスケジュールは作っていない。入居者の生活スタイル、希望に沿った支援を心掛けている。</p>	○ 職員の都合に合わせた生活を押し付けないように気をつけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の協力も得ながら、理美容院に継続して行って頂いている方もいる。日常の生活の中では着る服を本人が選べるよう支援したり、外出時のお化粧など支援している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	考えることや選択する機会を今後も継続していく。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	おむつに頼らない、トイレでの排泄の継続、プライバシーや羞恥心に配慮した排泄ケアを行っている。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	できる限り希望に沿った入浴の提供、プライバシーや羞恥心に配慮した入浴の提供を行っている。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	余暇活動の充実を図っていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて金銭管理をしている方は1名だけしかいないが、ホームでお預かりしているお小遣いに関しては、買い物時なるべく本人に支払いを行って頂くように支援している。	○	個々の能力にもよるが、金銭を扱う機会を設け支援をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日二回買い物に出かけたり、地域の美容院に行くなど、地域に出かけることの重要性を重視し、社会参加を支援している。買い物外出に関してはチェック表を作成しており、一週間に一回以上は交代で入居者全員が買い物外出が出来るように支援をしている。	○	外出については、法人への事前の届出が必要な為、気軽に外出という事が難しい。そういった点をもう少し気軽に外出できるように調節をしていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年数回ホーム入居者全員での外出や外食を企画して実行している。しかし個別の外出についてはなかなかニーズに沿った外出支援ができていない。	○	家族や職員といった、個別の外出支援ができるようにしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族了解のもとで、本人の希望に応じて電話を支援している。現在はホーム入居者からご家族に電話をする機会はほとんどないが、ご家族からかかってきた電話を入居者がお話しされることはある。	○	希望される方がみえれば、対応していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等に細かい決まりはないため、いつでも自由に来訪して頂けるように声をかけている。面会時はご本人の部屋などでゆっくり過ごして頂けるよう配慮し、お茶などを出し少しでも入居者と過ごして頂けるように心掛けている。	○	気軽に来訪して頂けるように、環境の整備、雰囲気の良い挨拶を心掛けていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束廃止推進員養成研修を終了し、ホームとしても開設時より身体拘束は一切しないという方針の下で全職員の意思統一ができていく。また身体拘束ゼロの手引きも各種マニュアル同様職員が見れるようファイリングしている。また、法人内の委員会活動にも参加している。	○	如何なる拘束行為もしないことを、職員一人一人が意識することで、ケアの中に拘束行為が一切生じないようにしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠を行っているが、ホームでは玄関等に鍵をかける事も身体拘束と捉えている為、日中などは施錠はしていない。各居室からも中庭等に自由に入出りできるようにしている。玄関は開くと音が鳴るようになっており外出の把握が出来るようになっている。	○	施錠しないことを継続していく。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は個々の活動量や活動範囲に応じて定期的に所在確認を行い夜間帯は2回、安眠に配慮しながら定時巡視を行い安否確認を行っている。	○	安全を守る為に定期的な確認・巡回は継続していきたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険だから物を置かない、使用しないというのではなく、どのようにしたら安全に使用出来るかを考え支援している。特に注意が必要な物については時間帯（特に夜間）や状況によっては保管場所を決め管理を行っている。	○	個々の状態を勘案して、保管場所等を検討して行きたい。危ないから置かない、触らせないという事のないようにする。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時のマニュアルは作成してある。事故防止については、日々の中でスタッフ同士情報交換を行いながら危険の把握に努めている。また、カンファレンスやスタッフ会議にて対応の統一を図っている。	○	状況の確認等はできているが、防止策等の共有がされにくい。職員間で周知徹底できるようにしていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変時等のマニュアルは作成してあるが、いざという場面で活用されるかは疑問である。誤嚥や重度の急変等に関する対応が出来るとは言えない為、ホームの看護師や併設の特養看護師との連携をとっている。	○	マニュアルの見直しや、学習会、救命講習などへの参加を計画し実施していく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対しての避難訓練は夜間の想定も含め特養と合同で行っているが、地震についての訓練、対策は十分とはいえない。地域への働きかけもできていない。	○	防災意識の向上のために定期的な訓練や、非常時に対する備えを進めていきたい。また運営推進会議等において地域住民や家族との連携も検討をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々の状況や変化については面会の際などに個別に説明を行っている。生活する上でのリスクはホームだからと捉えず、一般的なの生活の中にも様々なリスクがある事を説明し、リスクばかりに重点を置き、不必要な行動制限を加えることの無いようにリスク管理を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週一回体重測定やバイタル測定を行なうことで血圧や体重の推移をモニタリングするようにしている。日頃の状態についてはカルテや日誌を基に情報の共有を図っている。	○	情報の伝達、共有が不確実な時もあるため、情報の一元化、確実な情報伝達の仕組みづくりを進めていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに内服している薬の説明書を挟み込んであるため、どのような薬を内服されているか把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食事の提供をしたり、水分摂取量の調整を行うと共に、個々の状態に合わせた運動を行い自然排便が出来るよう支援している。排便間隔は記載して入居者の排便状況を把握しているが、排泄が自立されている方の排便確認がしっかりと出来ていない。	○	薬に頼ることなく、食事内容や運動によつての自然排便を継続していきたい。排便確認も方法を検討していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアもしくはうがいを行うように支援している。個々の能力に合わせて適切な支援をし、食後口腔内に食物残渣が残らないよう心掛けている。義歯は夜間帯必ず洗浄剤を使用し清潔を保つように支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランス、色彩、量を考慮しながらメニューを考えている。メニューはメニュー表を基に同じような食事にならないようにしている。	○	カロリー計算は行っていないため、特養栄養士と相談し、個々に合った食事量など、適切なアドバイスを受けるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の有無は入居前の診断書にて確認している。インフルエンザの予防に関しては入居者、スタッフ共に予防接種を毎年行っている。感染症対策マニュアルを基に職員、入居者ともに手洗いの徹底を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は速やかに調理に使用し、長期保存しないようにしている。肉、魚と野菜を切るまな板を分けて使用し、肉や野菜を切った後はアルコール消毒を行っている。まな板、包丁は毎日夜に漂白、アルコール消毒を行い、まな板に関しては食洗機にて乾燥まで行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠せず自由に入出入りできるようにし、気軽に来訪できるようにしている。玄関ホールには季節の花を飾り、親しみの持てる空間にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多くつけた建物であり木のぬくもりを感じられるよう照明に関しても配慮している。窓は大きく自然の光を多く取り入れられるようになっている。また共用スペースと一体となった台所からは食事のおいさ、音などが直接入居者に感じてもらえるよう生活観を感じられるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にはテーブル席、リビングスペース、和室スペースがある。ホームの所々に長椅子や応接椅子が配置してあり、居室以外の場所でも過ごすことができる様になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスなどの家具はすべて持ち込みと なっている為、使い慣れた物を持ってきて頂く事 で、安心できる空間が確保できるように配慮して いる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気は共用スペース、各居室共毎日行っている。 換気能力が低下しないように換気扇の掃除もおこ なっている。温度調節はなるべく自然の風や衣類 にて調節し、暖房や冷房に頼らない空調に配慮し ている。	○	感じる温度は個人差があるため、個々の状況に応 じた温度調節を行っていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、必要な場 所への手すりの設置もできており安全に配慮はさ れている。椅子の高さが合わない方には足置き台 を作って使用して頂き、個々の身体機能に合わせ た支援をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室扉とトイレ扉が同じなので、誤認を防止する ために分かりやすく表記している。各居室にも名 前を分かりやすく表記したり、似顔絵を貼ったり している。3ヶ月に1度行うカンファレンスにおい てもできること、できないことのアセスメントを して支援すべきことを検討している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	リビングに面したテラスは、洗濯物干し場や外の 風景を眺める場所としている。各居室から直接出 られる中庭には四季の花を植え草取りや水まきも 行っている。また、ホーム裏には畑があり季節の 野菜を栽培し収穫、ホームでの料理に利用してい る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・1日2回(午前と午後)買い物に出かけることで、地域との交流の機会や外出する機会を作っている。買い物の回数を増やすことで、入居されている方が必ず週に1度は外出することができている。毎日の食事のメニューもチラシを見ながら入居者と相談し決めることで、選択の機会と自己決定の機会を作り、希望に沿った食事を提供している。施設による行動範囲の制限を加えず、外に出て行かれる方にも出来るだけ一緒に付き添い意思、行動を大切にすケアを実施している。ケアプランにおいてもセンター方式をアレンジしたシートを使用し入居者の状態を把握し、入居者の出来る事、やりたい事などを活用することでADLの低下を防止し、ホームにおける生活環境作りをしている。